

わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ わたしを捜さなかった者たちに、見つけられた

第117号

イザヤ 65:1

平成17年6月24日

イスラエルの神、主はこう仰せられる。「わたしがあなたに語ったことばをみな、書物に書きしるせ。見よ。その日が来る。．．． その日、わたしは、わたしの民、イスラエルとユダの捕われ人を帰らせると、主は言う。わたしは彼らをその先祖たちに与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」主がイスラエルとユダについて語られたことばは次のとおりである。．．． 「おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があって平安はない。．．． なぜ、みな顔が青く変わっているのか。ああ。その日は大なる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。その日になると。．．． わたしは彼らの首のくびきを砕き、彼らのなわめを解く。他国人は二度と彼らを奴隷にしない。彼らは彼らの神、主と、わたしが彼らのために立てる彼らの王ダビデに仕えよう。わたしのしもべヤコブよ。恐れるな。．．． イスラエルよ。おののくな。見よ。わたしが、あなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から、救うからだ。ヤコブは帰って来て、平穩に安らかに生き、おびえさせる者はだれもない。わたしがあなたとともにいて。．．． あなたを救うからだ。わたしは、あなたを散らした先のすべての国々を滅ぼし尽くすからだ。しかし、わたしはあなたを滅ぼし尽くさない。公義によって、あなたを懲らしめ、あなたを罰せずにおくことは決してないが。」．．． 「見よ。わたしはヤコブの天幕の捕われ人を帰らせ、その住まいをあわれもう。町はその廢墟の上に建て直され、宮殿は、その定められているところに建つ。彼らの中から、感謝と、喜び笑う声がわき出る。わたしは人をふやして滅らさず、彼らを尊くして、軽んじられないようにする。その子たちは昔のようになり、その会衆はわたしの前で堅く立てられる。．．． その権力者は、彼らのうちのひとり、その支配者はその中から出る。．．． わたしはあなたがたの神となる。」．．． エレミヤ書30：2-24。

わたしは生きている。．．． わたしは憤りを注ぎ、．．． 必ずあなたがたを治める。．．． あなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。わたしはあなたがたを国々の民の荒野に連れて行き、そこで、顔と顔とを合わせて、あなたがたをさばく。わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地の荒野でさばいたように、あなたがたをさばく。．．． あなたがたにむちの下を通らせ、あなたがたと契約を結び、あなたがたのうちから、わたしにそむく反逆者を、えり分ける。．．． ただわたしの名のために、あなたがたをあしらうとき、イスラエルの家よ、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。．．． 」エゼキエル書20：33-44。

ユダヤ人は人間史の中で異邦人を通して神に裁かれ、クリスチャンは「キリストのさばきの座」で報酬に与る裁きを受け、父なる神ヤーウエヤキリストを受け入れない異邦人は「栄光の座」で、この世の終末の最後の、特に大患難の時期に、キリストの兄弟たちをどのように取り扱ったかによって裁かれ、『永遠の命に至る道』か『永遠の刑罰に至る道』かにふり分けられることを先回までに考察してきました。

人には計り知れない不可思議なご計画によって、神は人間史において、アッシリヤ、バビロンはじめ異邦人をご自分の「怒りの杖」としてイスラエルを懲らしめるために用いてこられました。この『異邦人を通して神の民を間接的に裁く』という独特なパターンで裁きを執行してこられた神も最後には、イスラエルに敵対してきた異邦人を今度は神ご自身が直接裁き、滅ぼすことを、そして苦難にあえぐイスラエルは神ご自身がじかに救い出されることを、旧約の預言者たちは告げてきました。冒頭に引用したくぐりだりはヤコブの「苦難の時」とその後訪れる救いの日のことに言及しています。使徒パウロも試練の後に到来するこの救いの日を次のように語っています。『兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思ふことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになつたのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりで、「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」』（ローマ人11：25-17）と。裁きが神の民イスラエルから始まって必ず異邦人に及ぶという神の裁きの原則は旧約の預言者たちによって繰り返して語られてきましたが、ペテロも同様に「あなたがたのうちだれでも、人殺し、盗人、悪を行なう者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。．．． なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが神の家から始まるのだとしたら、神を敬わない者や罪人たちは、いったいどうなるのでしょうか。ですから、神のみこころにしたがってなお苦しみに会っている人々は、善を行なうにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。」（第一ペテロ4：15-19）と語っています。これは、キリストの福音が告げられた

新約の時代、キリストの証し人が、キリスト者であるがゆえに苦しみを受ける試練のときがこの世で神の裁きとして起こることを当然のこととした上で、しかし他方で、この世から迫害を受けることなく今は順風満帆じゆんぷうまんぱんの人生を送っている「神の福音に従わない人たちが」、神に裁かれずに済むことはあり得ないから、彼らの道に引きずられることなく、たとえ苦しくても「栄光の冠」を受けることのできる道、キリストの報酬に与る『唯一の道』を最後まで走り通しなさいと、キリストの名のために非難される信仰生活を送っている者たちを励ましたものでした。

キリストを信じる者が、ペテロの言葉を借りれば「キリストの苦難の証人」「やがて現われる栄光にあずかる者」として、この世で裁きにあうことが過去二千年続いてきたのであれば、神ヤーウエの証人として選ばれたユダヤ人はなんと過去四千年の間、神の裁きとしてこの世からの迫害の下に置かれてきたのでした。エゼキエルが「民の荒野」と呼んだ、度重なる迫害、戦争、捕囚、放浪、国家と領土の剥奪、全地への四散という憂き目に遭って絶滅の危機に瀕しても、「残りの者が残る」という預言通り、ユダヤ人は天災、人災を奇跡的に乗り越えて生き残り、1948年にはついにユダヤ人王国イスラエルとして国が復興したのでした。しかし、神のアブラハム、イサク、ヤコブへの約束（領土、大いなる強い国民、子孫の繁栄、全諸国民の祝福）は未だ成就していません。「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。．．．わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンカナンの全土（エジプトの川からユーフラテス川までの今日、パレスチナと呼ばれている地域）を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」（創世記17：6-8）が実現するとしたら、言い換えれば「主が、アブラハムに約束したことを、彼の上に成就する」（18：19、下線付加）としたら、神を信じない者たちが裁かれ、この世の人間の体制が一掃された後でしかないのです。なぜなら、約束がアブラハム自身の上に成就するには、彼が『甦りの体』で入ることのできる国、この地上に実現すると聖書が明言している「神の国」、イエス・キリストの千年支配の時代をおいて他にないからです。

ユダヤ人の油注がれた王メシヤが支配する理想的な公平、平和の時代を旧約の預言者たちははるか望み見て描写してきました。しかし、全地がキリストの証し人、神の言葉、教えで満ち、平和、公義、愛、祝福、長寿、豊饒、菜食、協調、充実で特徴づけられるこの「神の国」が始まるには、ヘブル語聖書やヨハネの黙示録に記されている預言によれば、直前にユダヤ人の上に次のことが起こらなければならないのです。

1. 全地に散らされたユダヤ人のイスラエル帰還 ーソ連邦の共産主義崩壊以来富に、ロシア系ユダヤ人が旧共産主義諸国から続々と帰還を始めていますし、鑑定でユダヤ人と認められた民族、種族のイスラエル帰還政策が積極的に推し進められていることから、この預言の成就是すでに今日始まっているのです。
2. 「ヤコブにも苦難の時」とエレミヤが表現した大患難期
3. イスラエル、エルサレムに最後の戦いを挑む諸外国勢に対し、再臨のイエス・キリストご自身と主の軍勢が出陣する「ハルマゲドン」の戦い
4. ユダヤ人のメシヤ到来を待ち望んで来た、父なる神ヤーウエを信じる者たち、いわゆる「イスラエルの残りの者たち」が「勝利の王」として白い馬に乗ってこられる再臨のイエスをメシヤとして受け入れ、一日のうちにキリストを信じる者に変えられる
5. 再臨された甦りのキリストが、キリストの「花嫁」とともに、エルサレムを世界の首都として支配されるユダヤ人王国の復興

かつて弟子たちが見守る中、イエス・キリストが昇天されたその同じ「オリーブ山」に主が戻ってこられる日、主の足が山の上に降り立つ瞬間、「オリーブ山は、その真中で二つに裂け、東西に延びる非常に大

きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。わたしの山の谷がアツアル（エルサレムの東端）にまで達するので、あなたがたは、谷を逃げて逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。」（ゼカリヤ14：4-5、下線はNIVからの邦訳）と、全地の地形が一変する大規模な地殻変動が起ります。隆起して周りのどの山々よりも高くなったエルサレムからは湧き水が流れ出、東方は死海へ、西方は地中海へとつながり、現在塩分25%という文字通り死海には、驚くべき多くの種類の魚が生息するようになり、エルサレムの周辺一帯はエデンの園のように潤うこととなります。果実は食物、葉は葉となる捨てる部分のない果樹は毎月新しい実をつけ、繁殖、生長に象徴されるこの時代は、まさにパウロがローマ人への手紙8章で預言した「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられ（る）」とき、キリストの再臨によってもたらされる時代なのです。しかし、人も地も贖われるエデンの園の再来のような平和そのものの「神の国」も千年という限られた時を経て、神の人類救済のご計画の最終段階へと移っていきます。最終段

階で、千年間「底知れぬ所」の牢に閉じ込められ諸国の民を惑わすことのできなかつたサタンが再び放たれ、全地を惑わす最後の恐ろしい攪乱かくらんのときが訪れるのです。人類が最初の人間の墮落以来世代から世代へと受け継いできた神への不従順、いわゆる「原罪」と呼ばれる罪の問題、肉なる人間の心の奥に潜む神に従いたくないという反逆心に決着をつけるためサタンが再び用いられ、最後のふるい分けが執行されるのです。